

東洋美術学校 出張講座「ハンセ

講座の中で印象に残った部分
講座を聞いた後の認識
講演に参加した感想
今後考えてみたいこと
講座の中で印象に残った部分
講座を聞いた後の認識の変化
講演に参加した感想
今後考えてみたいこと
講座の中で印象に残った部分
講座を聞いた後の認識
講演に参加した感想
今後考えてみたいこと

講座の中で印象に残った部分

講座を聞いた後の認識

講演に参加した感想

今後考えてみたいこと

「名誉の回復とは 私たちの問題として考える」

ハンセン病問題の概要について、周囲の人に説明することができると思う。

「勉強して、想像する」が大切なことだと改めて学んだ。資料館や美術館で、ただぼーっと受身で見るのではなく、積極的に「勉強して、想像する」ことでわかることが沢山あるということは常々感じていて、それがもっと色んなところで応用できたら良いなと思った。また、回復者さんの名誉回復については、奪われてしまった家族や時間は取り戻せないけれど、一人の人間として自分の好きなことを見つけて取り組んだり、色んな人と出会って一緒に時間を共有するなど、残された人生を楽しく生きてほしいと思った。もし私だったら、友達と海外を飛び回りたい。

コロナ禍、田舎の様な小さいコミュニティの中では「あの家がかかった」「うちは感染者が0なのに、〇県から持ち込まれる」などの会話は日常茶飯事だった。少なからず、ハンセン病が流行った当初と似た、誰かが悲しい思いをするような事があったと思う。心ない考えや発言が生まれないような世の中にするためには？また、早くから解放療法を行った海外と、何度も隔離を進めた日本の違いとは？気になった。

「ハンセン病患者、回復者とその家族が受けた被害の実態」

ハンセン病問題の概要について、周囲の人に説明することができると思う。

ハンセン病患者の扱いや政府の対応を見て、自分が思っていたよりもずっとグロテスクで、なんでこんなに攻撃的になれるんだろうとショックを受けた。でも今回話を聞けなかったら過去にあった出来事のひとつとして通りすぎていたと思うので、現在進行形の問題として認識を改める機会を得ることができてよかった。

名誉の回復というのがあまりピンとこなかったもので、具体的にどういうことを指すのかを考えてみたい。

「ハンセン病患者、回復者とその家族が受けた被害の実態」

ハンセン病にまつわる差別や偏見は、今も残っていると思う

事前の動画から出産が許されないことは知ったけれど、墮胎手術、断種手術が1万件近く行われたことにショックを受けた。7600もの小さな命を奪った一連の政策、差別、偏見は到底許されるものではないと改めて強く思った。

もしも身近な人にハンセン病回復者、その家族だと打ち明けられたらまず何と声をかけるか

「患者、回復者が生きる姿から学ぶ」
ハンセン病にまつわる差別や偏見は、今も残っている
強く思ったのは、当事者の幸せは当事者自身にしか分からないということ。このまま療養所で暮らすのか、社会復帰した方が幸せなのかは実際の回復者の方が決めることだと思う。「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という言葉が印象に残っている。
将来、回復者の方をはじめとした当時を知る人がいなくなって、またハンセン病のような不当な差別が起こりそうになった時、この講演を聞いた私たちができることは何か。
「名誉の回復とは 私たちの問題として考える」
ハンセン病にまつわる差別や偏見は、今も残っている
新型コロナの感染者が初めて町に出た時の町民の対応がハンセン病患者に対する対応と似ていてゾッとしました。(患者の住所を噂という形で多方面に垂れ流す、ご近所付き合いを消して孤立状態にする等)正直コロナの件でもドン引きしたのに国主体で強制隔離されたハンセン病となると...胸が痛みました。
身近な差別について 自分たちが無意識に差別してしまっている事はないだろうか。
「患者、回復者が生きる姿から学ぶ」
ハンセン病にまつわる差別や偏見は、今も残っている
ハンセン病の問題は全く昔の話ではなく、経験者がまだ生きているほど最近の出来事だということが印象に残りました。西浦さんが実際に会った方々が辛い経験したということ想像出来なかったと仰っていましたが、確かに私の祖父母の世代は戦争を経験していますがそのような風には想像出来ません。戦争もハンセン病と同じように経験した方々が減ってきているので、忘れ去られてしまう可能性があります。そのためにも私達が今生きている方々の話を聴いて、これから生きる人達に同じようなことが起きないように伝えていきたいです。
辛い出来事を実際に経験した語れる方が減っている中で、私達や全ての人々が忘れないためにこれからどのように伝えていくべきか。何をすべきか。
「なぜ隔離は続いたのか」
ハンセン病にまつわる差別や偏見は、今も残っている

知識がないと特に自分と違う特性を持っている人に対して怖いと思ったり不思議だと思えることはあると思う。しかしホテル宿泊拒否のエピソードの中に出てきたハガキを見て、自分が嫌なだけなのに「みんな」と主語を大きくしてそれを匿名で送るのは、存在しているかもわからない誰かを盾に、自分を守りながら攻撃している感じがしてなんだかみっともないと思った。

もし自分が回復者だったとしたら家に帰りたいと思いますか。

「ハンセン病問題の概要 ー歴史から考えるー」

ハンセン病にまつわる差別や偏見は、今も残っている

もし、自分が生きた年代がもう少し昔でハンセン病の差別が酷い時だったら、自分も周りと同じように差別して他の人とハンセン病に対しての偏見を周りに植え付けてたんじゃないかなと思った。周りの意見を必ずしも鵜呑みにするのは良くないと思った。

自分が学芸員だったとして、ハンセン病のことや他の病気のことについて講演会を開くとしたら、聞いてくれる人達に何を伝えたいか